

YIA 会員だより 2017年3月号

発行 ; 吉野川市国際交流協会・広報部(Tel22-2271,Fax22-2270)

ホームページURL <http://www.teu.or.jp/kamojima/yia/>



3月度 定例活動/他

定例理事会

日時:3月27日(月)15:00~16:30

場所:文化研修センター2F

◆英会話教室

ネイティブスピーカーとしゃべってみましょう!

☆鴨島教室 毎週木曜日19:00~21:00

初心者クラス 講師:ステイシーさん

中級者クラス 講師:ミシェルさん

文化研修センター2F.

お問合せ:後藤田さん(TEL 0883-24-5234)

☆山川教室 毎週火曜日19:00~21:00

初心者クラス19:00~19:30

山川公民館 講師:タマラさん

お問合せ:長井さん(TEL:090-1575-8634)

☆川島教室 毎週水曜日19:00~21:00

初心者クラス19:00~20:00

川島東公民館、講師:ジョンさん

お問合せ:井口さん(TEL0883-24-5365)

◆日本語教室

【村上教室】(TEL 0883-24-8018)

<鴨島 文化研修センター>

毎週日曜日 13:30~15:30(初級日本語講習)

講師:村上さん、萩森さん、白岡さん、

井口さん、市原さん

毎週金曜日 17:00~19:00 中級(N2レベル)

19:00~21:00(職業日本語講習)

【手塚教室】(TEL 0883-24-1284)

<市場町コミュニティセンター>

毎週日曜日 10:00~12:00

<高川原公民館>

毎週日曜日 13:30~15:30

講師:手塚さん

◆日本文化体験(随時)

ぞめき&長唄 弾きま専科(三味線の指導など)

わさよし

講師:松永 和三喜美さん(乾Tel:0883-24-1254)

◆ 国際交流クッキングを終えて 横山美津子

2月26日(日)に、吉野川市鴨島老人福祉センターで、藍住の石本美智子先生を講師に迎え料理教室を開催しました。外国人がベトナム人5名、タイ人3名、アフリカから1名の9名、日本人17名の合計26名で定員一杯の参加者がありました。献立は、生春巻き、手打ちパスタ、豆腐のティラミス。さすが人気の先生の指導の下、準備も万全で、各グループ外国人と日本人が役割分担して本当にスムーズに進めることができました。献立の説明を始めてからなんと2時間の11時30分には出来上がりです。食事にたっぷり時間が取れ、自己紹介や料理教室の感想を順番に話しました。



「今日の料理はおいしかった」、「短時間で手順よくできた」、「家でもできそうで、料理したいと思う献立だった」などうれしい感想を聞くことができました。私のグループでも生春巻きを巻いたり、パスタの粉を練ったりベトナム人が大活躍をしてくれました。若い彼らの満足そうな顔を見るにつけ今回の活動はほんとにいい国際交流ができたなあと感じました。そして、今日の料理教室の体験は将来、日本でのいい思い出として記憶してくれるかなと思うと、なぜか胸が熱くなりました。

参加者の方から英語ができないと国際交流協会の活動に積極的に参加しにくいというご意見をいただきました。が実は言葉が十分でなくても、直接のふれあいが大事で意味があると思います。次回は、さらにたくさんの参加者があることを願っています。





現在、鴨島英会話教室は、初級をミシェルさん、中級をステイシーさんが担当しています。後半1時間は、2人の先生が中級クラスを指導しています。毎回、様々な課題が与えられ、リーディングやリスニングを通して、英語力をブラッシュアップさせています。2月はバレンタインに因んだクイズをしました。2月14日のバレンタインデーは、なんとキリスト教司祭だったバレンタインが処刑された日だったんです！ローマ帝国皇帝・クラウディウス2世は、愛する人を故郷に残した兵士がいると士気が下がるという理由で、ローマでの兵士の婚姻を禁止しましたが、キリスト教司祭だったバレンタインは、秘密に兵士を結婚させて処刑され、祭に捧げる生贄とされました。その後この日が男女の愛の誓いの日とされ、バレンタインデーとなったそうです。

女性が男性にチョコレートを贈るのは、日本独自の習慣で、1958年に東京都内のデパートで始まりました。欧米では、恋人や友達、家族などがお互いにカードや花束、お菓子などを贈ります。北米のバレンタインデーは男性から女性にプレゼントを贈り、花とカードが定番だそうです。これも初耳！まさに異文化を学んだ英会話教室でした。

◆ 日本語石井教室

手塚 功

石井教室も今年からベトナム人[昨年12月来日]が来られるようになりました。今まで、中国人が殆どでしたが、石井の教室も多国籍の学習者になりつつあります。そこで、ベトナム人にベトナムの料理を教えてくださいませんか、との依頼があり、それにお応えする意味で、2月5日に(日)石井公民館分館で料理教室を開きました。料理の名前は Banh da lein[春巻き]でした。私の教室から9名が参加し、10:30-13:30まで和気あいあいの中、日本人との交流も出来ました。この機会を利用して日本語を精一杯話そうと努力している様子を陰から応援していました。私は市場教室で授業があったので途中から参加でした。料理教室が終わって通常通り教室に戻り日本語の授業を行いました。

その後4時からの次教室へと足を運びました。

料理教室 懇談風景 →

私が勤めていた某電器メーカーで2005年インドネシアの工場に生産管理システム(SAP)を導入することになり、親元工場のスタッフとして数名で1年間程度インドネシアのジャカルタの工場で働いたときのコミュニケーションについて二つの方法を取ったことを書かせていただきます。現地ではシステム導入コンサルタントが約30名と現地スタッフと我々でプロジェクトを立ち上げました。コンサルタントは日本以外のアジアの多国籍で共通言語は英語で行われました。



当初コンサルタントのプレゼンテーションを半時間から1時間聞いておらなければならず、集中力が持たなくまた専門用語を使っている話なので理解できずに困りました。そこでコンサルタントの責任者を呼び、発表の仕方についてお願いをしました。「日本の会社では、まず結論を先に述べ、その理由を説明します。」そのように変更してください。するとその後の会議は、お互いが専門家なので意思疎通ができ、かつ5,10分で終わるようになりスムーズなコミュニケーションが取れるようになりました。

しかし日々担当コンサルがいろいろな国の英語で細かな判断を迫って来ます。理解が完全に出来なければOK,NGを出せません。そこで「彼らに1枚の紙を渡しそこに英語で思いを書かせ、また必要であればスケッチ図を書いてもらいました。」それで彼らの意図が理解出来、適切な判断をすることができました。

私の経験は日常会話ではない、多国籍プロジェクトという特殊な状況での異文化コミュニケーションですが、困ったときに思い出して頂ければ幸いです。

ご意見・情報などをお寄せください。

広報部長 長井まで(TEL090-1575-8634)

e-メール; yoshino_kokusai@yahoo.co.jp

